

## 2. 調査地

調査地は、名古屋港の弥富ふ頭に位置する**楠広場**(35°3'32"N 136°48'17"E)である(図-2.1).

弥富ふ頭は 1976 年に着工し、2018 年に現在の姿となった。現在では窯業原材料の流通センターや鋼材メーカー、航空機製造工場などが立地しており、西部臨海工業地帯の一角として発展してきた。楠広場は名古屋港臨海緑地条例に基づき、名古屋港管理組合により告示された緑地であり、名古屋港緑地保全協会によって管理がなされている(名古屋港管理組合 2021)。

楠広場における樹木の植栽は 1977 年に行われ、植栽時の樹種名、植栽位置の記載された植栽平面図が作成された。2 つの大きな運動スペースの周りに植栽された樹木はマテバシイ(*Lithocarpus edulis*)、クスノキ(*Cinnamomum camphora*)、クロガネモチ(*Ilex rotunda*)などの常緑樹が多く植樹され、広場内の通路沿いにはサツキ(*Rhododendron indicum*)やキャラボク(*Taxus cuspidata var.nana*)などの低木も植樹されている。

また、名古屋港では、身近で親しまれる港湾環境の創出とともに、生物多様性に配慮し、港湾開発や港湾活動に伴う環境負荷軽減を図るため、平成 30 年代後半を目標に 339ha の緑地と 2560m の海浜を計画しており、楠広場もその計画の一環として整備が行われ、2.1ha の面積を有し、休息緑地として人々がスポーツやレクリエーションを楽しめるような野球場や広場が整備されている(図-2.2)。防災や避難所としての機能も備えられ、大規模地震発生時における防災活動拠点や一時的な避難所として活用できるスペースとなっている(名古屋港管理組合 2021)。

広場の周辺の地形は木材工場などの大型トラックが行き交う道路に囲まれ、南側には高さ 7.4m ほどの木材工場に面している。広場の周囲は 10m を超える木々に囲まれ、道路からは公園内の様子を見ることはできない(図-2.3)。

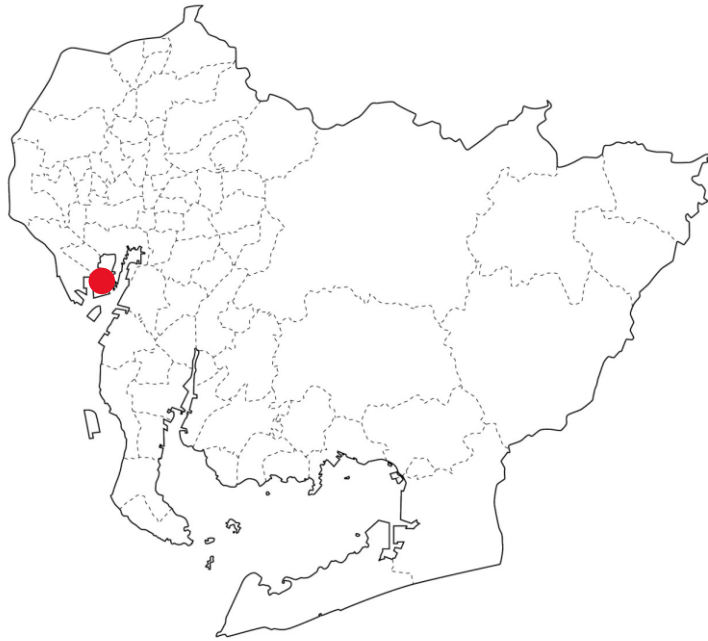


図-2.1 調査地の位置



図-2.2 調査対象地 楠広場



図-2.3 広場内の様子